

けての壮大な試みであった「EU」の亀裂は大きく、イギリスの離脱が象徴するかのよう、もう後戻りできないところまで進んでしまったようだ。その主導者たるドイツのメルケル首相の求心力も衰えている。目を転じれば、トランプ大統領の排他的政策はますます世界の枠組みを破壊し、その間隙を縫って、中国やロシアは大国主義へと突き進む。そして大国の利権に翻弄されるアラブの国々やイスラム圏は、なお混迷がやまない。

弱い者すべてが望む「世界の平和」と「公平な分配」はまるで泥にまみれたかに見える。

貧困に関する国際 NGO「オックスファム」の調査は有名だが、インドと中国の資料を追加した最新のデータでは、予想以上に貧困層の所有資産は少なく、下位の 36 億人の資産合計は、上位の 8 人の資産合計と一緒であると発表している。人類の歴史上、こんなに格差が広がった時代はあったのだろうか？歴史は多くの人々が望まない方向に動いているのだろうか。

世界と同様に、日本もまた、激動の時代を迎えている。

経済では、実感なき好景気が続きながら、格差は固定化し、非正規雇用の人々を中心に、経済の「底」を支えている労働者たちの賃金は上がらない。そして何よりも、高齢化とともに進む人口減少は、さまざまな分野において不安要素となり、未来地図を描けないでいる。それでも、「失われた 20 年」を取り戻すべく、エンジンをふかし続ける社会は、いったいどこへ向かうのだろうか。

そして、安全保障(?)を中心として現実味を持ち始めた「改憲論議」は、百家争鳴、何を軸に議論をしているのかもよくわからない。改憲、加憲、現憲法維持派とそれぞれあっても、どんな社会を目指すために、なぜ今議論するのか・・・、こうした疑問にはなかなか答えてもらえずに、改憲ムードにひたすらあおられているようにも感じる。

いったい私たちはどこから議論を始めるべきなのだろう。まずは現状を私たち自身の目線から分析し課題を見つけ、どうあるべきか、そして何が可能なかを語り合うところから始め、戦後始まった今の日本の将来像を作り上げていかなければならないのではないだろうか。憲法を変える、変えないという論議の前に、私たちが「未来に向かって大切にすべきこと」をこそ確認しあわなければならないように思うのだ。たくさんの課題に直面している時代なのだから。

日本は今、激動の時を迎えている。それは、明日には、今日までとは全く違う歴史的な転換点を迎えるかもしれないということだ。歴史から学ぶことは難しいが、歴史の流れの今という時間の中で、何を考え、何を求めるかということはさらに難しいことだ。

本年度教育講演会では、憲法論議を手掛かりに、今の日本の激動の様相を、歴史的文脈と、教育的視点でとらえることを試みたい。多くの方のご参加を期待する。

教育講演会

日時:2018年2月25日(日)14:00~17:00

場所:大和市文化創造拠点SiRiUS 6階601会議室

NPO法人教育支援グループ Ed.ベンチャー 総会&10周年記念誌披露

日時:2018年2月25日(日)11:00~12:30

場所:大和市文化創造拠点SiRiUS 6階610会議室

【理事のつぶやき】世界終末時計が人類による地球破壊まで 2 分前を示した。北朝鮮の核開発による核戦争への懸念が理由だ。2 分前は、過去最短で、第 2 次世界大戦以来の危険度の高まりだという。1 月 31 日には、神奈川県内で国民保護サイレン一斉再生訓練が行われる。サイレン音を広く知ってもらうのが目的だ。ひたひたと忍び寄る戦争の足音が聞こえる。子どもの頃習った「日本は戦争をしない国」を、いつまで子どもたちに伝え続けていけるのだろうか。(IT)